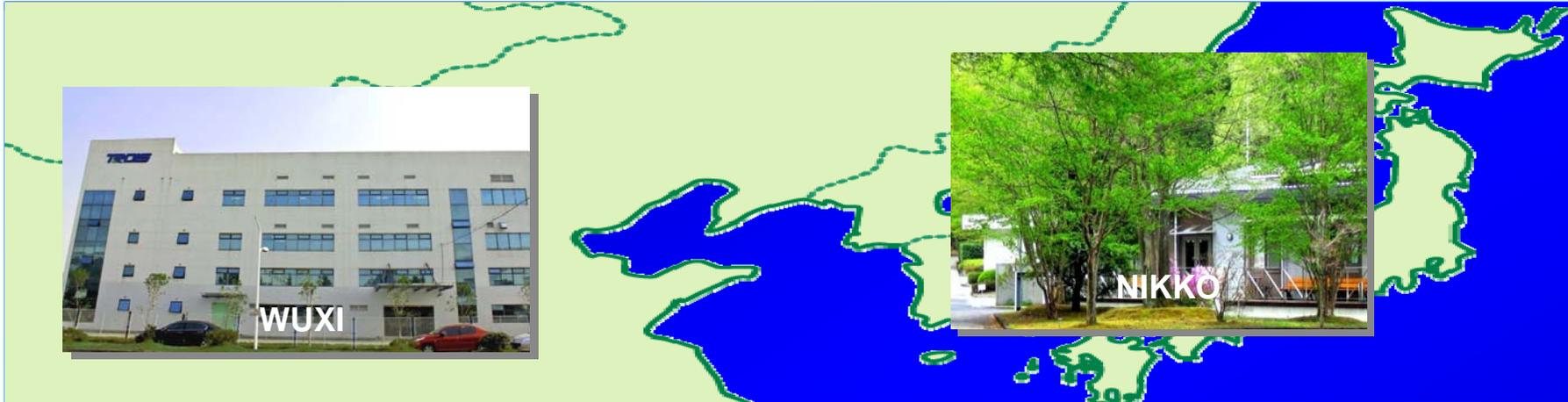


平成24年12月期決算説明会資料



株式会社 大日光・エンジニアリング (証券コード:6635)



代表取締役社長 山口 侑男
平成25年2月26日

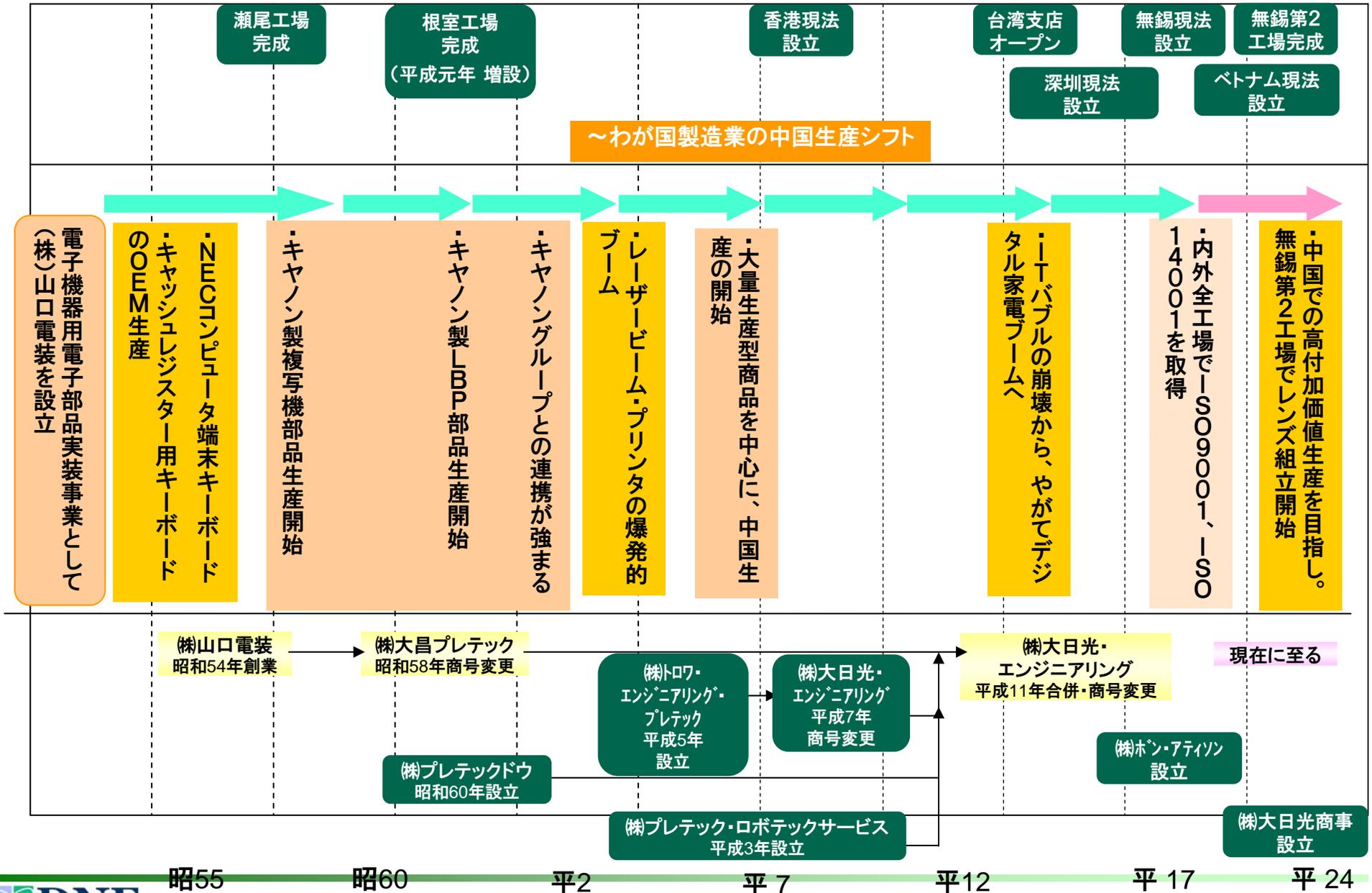
目次

- **会社概要** P. 2 ~ 4
- **決算概要** P. 5 ~ 12
- **業績予想** P.13
- **平成25年期の重点施策**
..... P.14 ~ 15

会社概要

- ◆ 会社名 : 株式会社 大日光・エンジニアリング
- ◆ 英訳名 : Di-Nikko Engineering Co.,Ltd.
- ◆ 代表者 : 代表取締役社長 山口 侑男
- ◆ 本社所在地 : 栃木県日光市瀬尾33番地5
- ◆ 設立 : 昭和54年9月
- ◆ 公開市場 : 大阪証券取引所JASDAQ(証券コード:6635)
平成19年3月上場
- ◆ 資本金 : 8億5,630万円(平成24年12月末現在)
- ◆ 従業員数 : 個別 234人 連結 2,090人(平成24年12月末現在)
- ◆ 主要業務 : 電子部品実装を核とするエレクトロニクス製品の受託
加工事業
基板設計から、最適部品の調達、技術者の派遣、製造、
物流までのサービスを一貫して提供
- ◆ 連結子会社 : 国内2社、海外4社(平成24年12月末現在)

沿革



当社グループが生産する主な製品

電子部品実装部門の製品

BGA/CSP実装基板



両面多層/高密度実装基板



自社設計電源基板



機構組立(筐体組立)の製品

放送通信機器/中継機



POSターミナル(OEM生産)



平成24年12月期連結決算概要

連結損益計算書

前期比

(単位:百万円)	平成23年 12月期	平成24年 12月期	増減額	増減率(%)
売上高	38,172	36,706	△1,466	△3.8%
売上原価	35,633	33,790	△1,843	△5.2%
売上総利益	2,538	2,915	+377	+14.9%
販売費及び一般管理費	1,568	1,757	+189	+12.1%
営業利益	970	1,158	+188	+19.4%
営業外収支	27	△87	△114	-
経常利益	997	1,070	+73	+7.3%
特別損益	△ 25	37	+62	-
税金等調整前当期純利益	972	1,107	+135	+13.9%
法人税等	504	448	△56	△11.1%
当期純利益	467	659	+192	+40.9%

経営成績に関する分析

1. 売上高

(1) 日本

- 社会生活機器用は上半期増産も、下半期受注減少、新製品量産体制構築に時間を要し減産。
- オフィスビジネス機器用は円高による海外生産シフトにより減産。
- 産業機器用は前期の受注が上半期まで継続も、下半期減産。

(2) アジア(中国)

- 深圳子会社は上半期オフィスビジネス機器用の日本からの生産シフト、社会生活機器用の新規受注が堅調に推移も、下半期は減産。
- 無錫子会社も上半期オフィスビジネス機器用・社会生活機器用ともに堅調に推移も、下半期に減産。

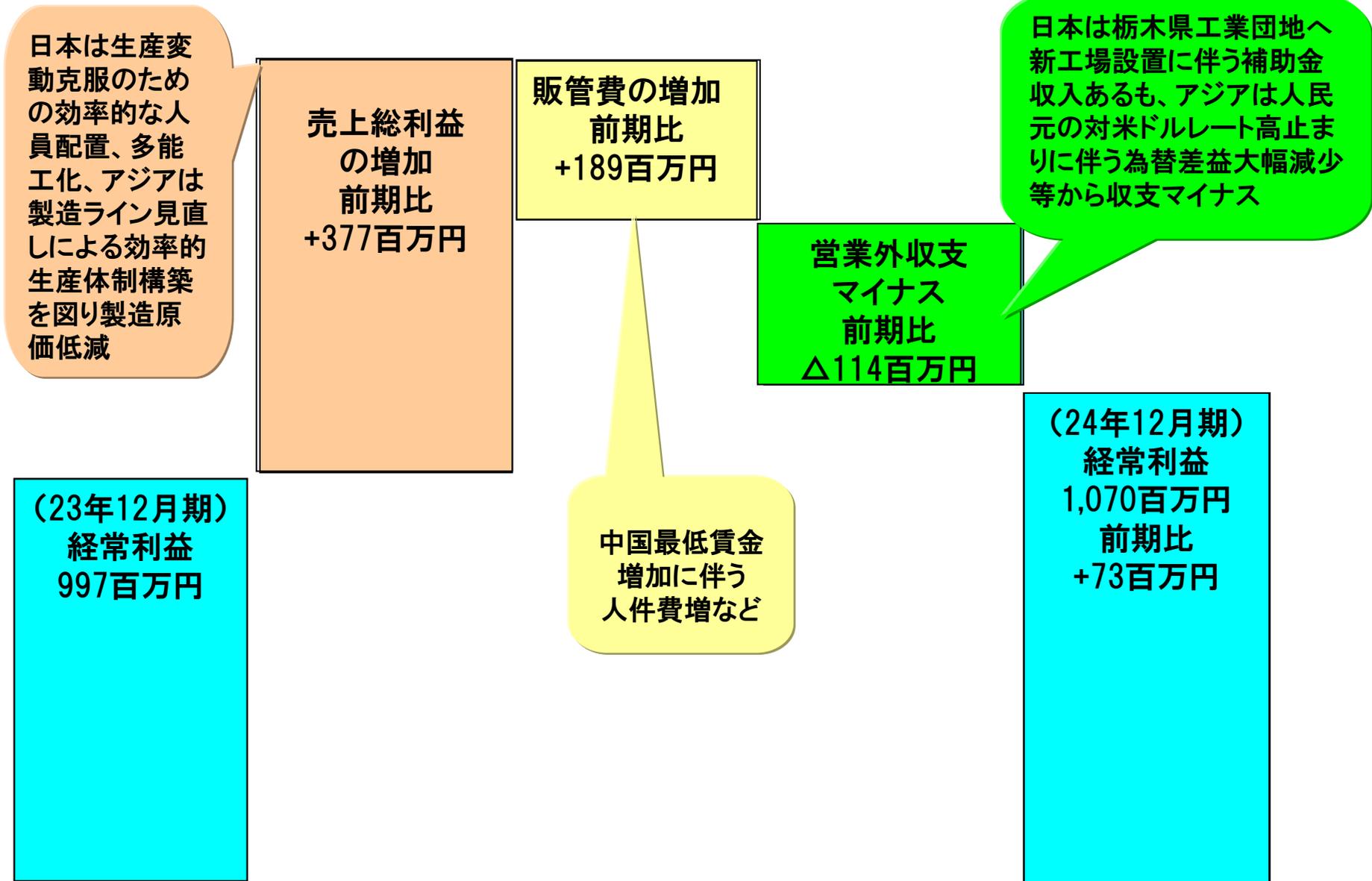
以上要因で、連結売上高は36,706百万円(前期比3.8%減)となりました。

2. 損益

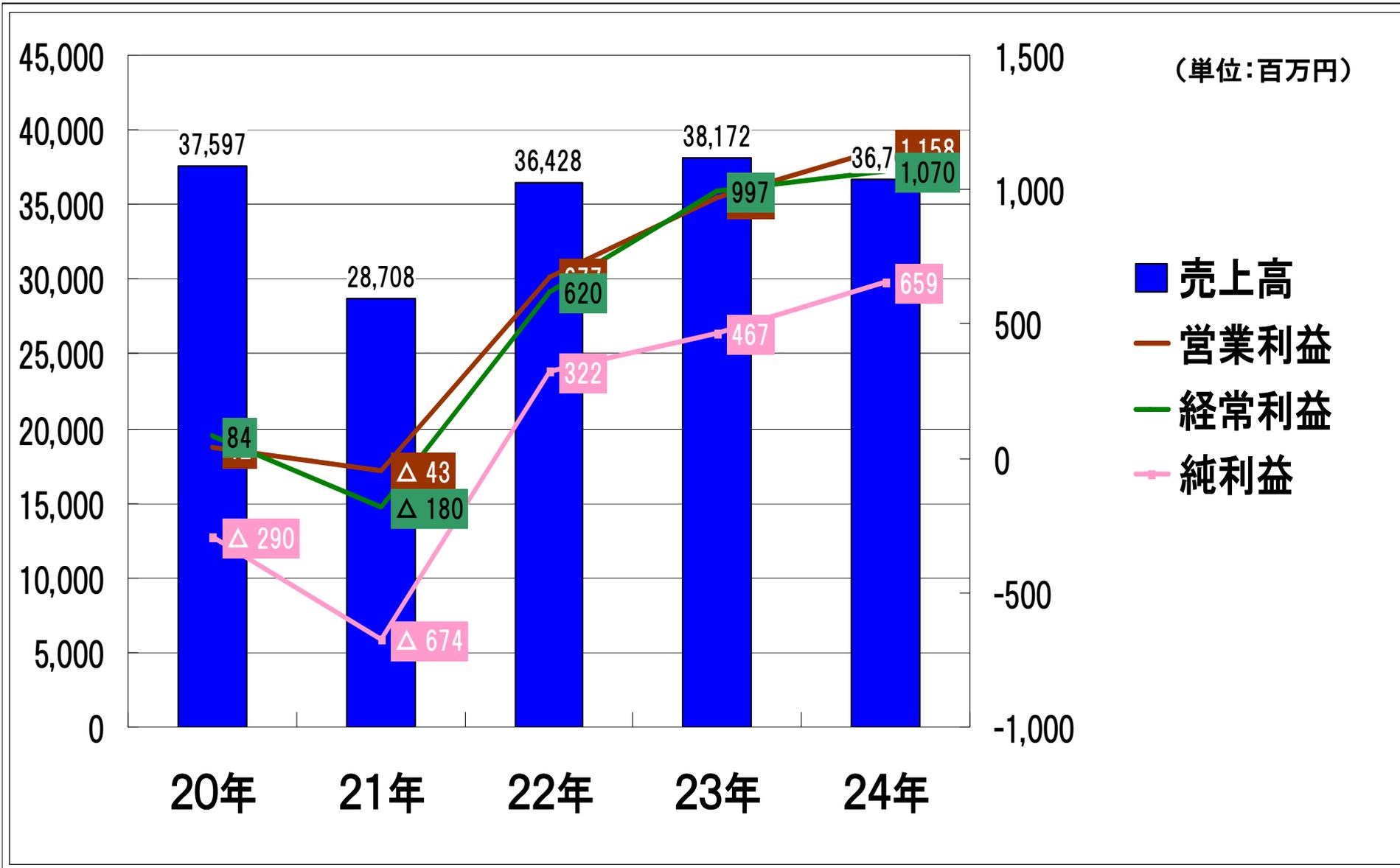
(1) 国内外とも、効率的な人員配置、効率的な生産体制構築に注力し、当連結会計年度の営業利益は1,158百万円(前期比19.4%増)となりました。

(2) 営業外収支は、海外において人民元の高止まりにより為替差益減少し△87百万円となり、経常利益は1,070百万円(前期比7.3%増)、当期純利益は659百万円(前期比40.9%増)となりました。

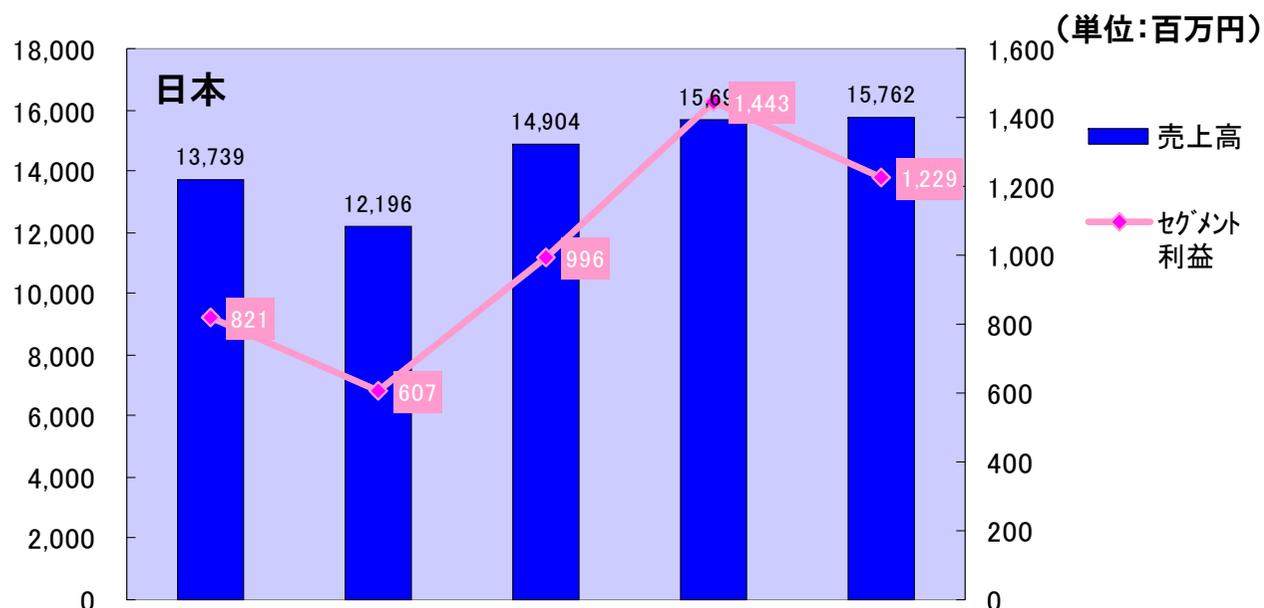
連結経常利益増益要因分析



連結業績推移



報告セグメントごとの売上高、利益又は損失推移



<日本>

売上高: オフィスビジネスユニット(OBU)は海外シフトで減産、社会生活系は前倒し生産から上期増産も下期受注減となり、通期ではほぼ横ばい

セグメント利益: 下期減産の影響大きく減益

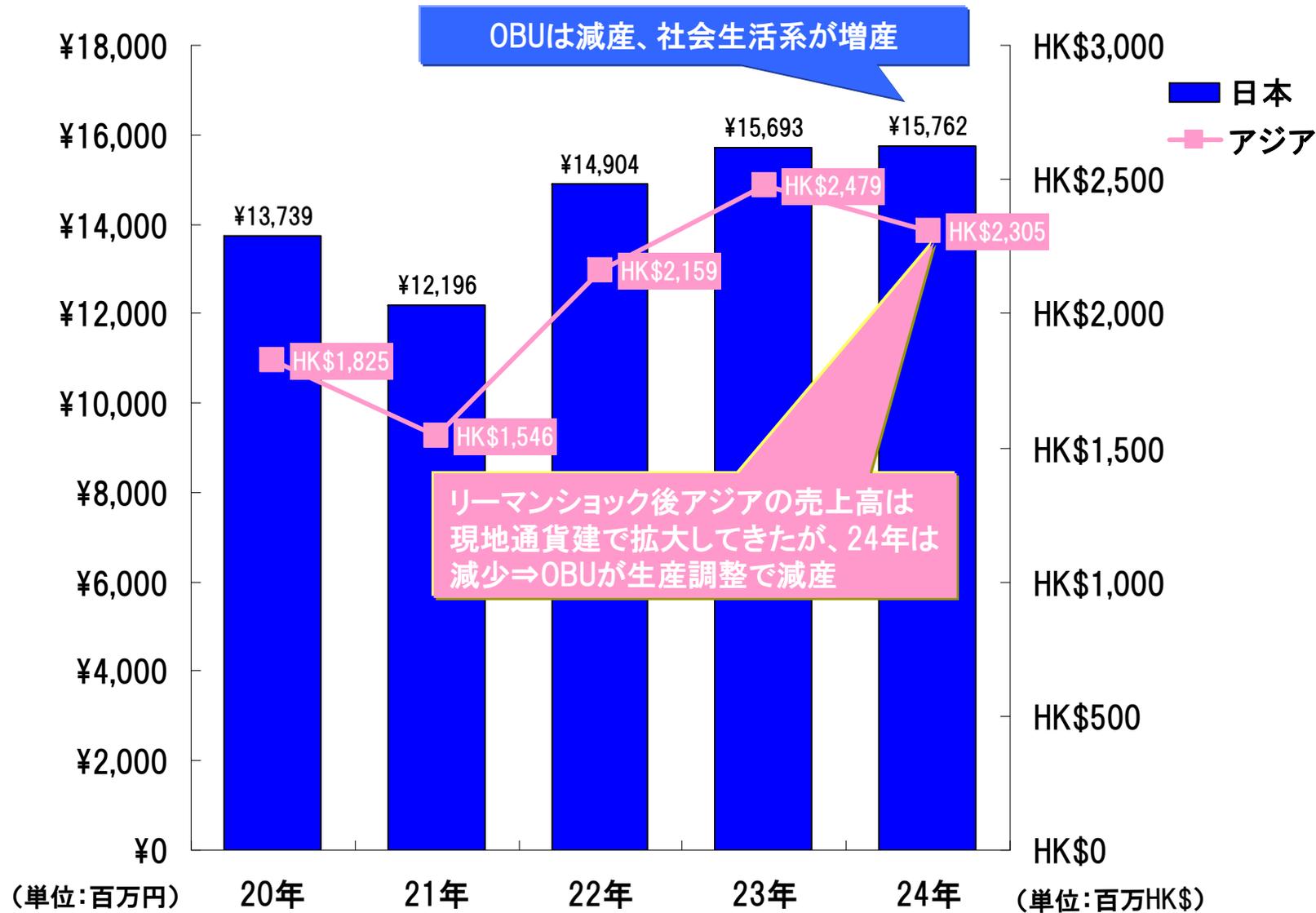


<アジア>

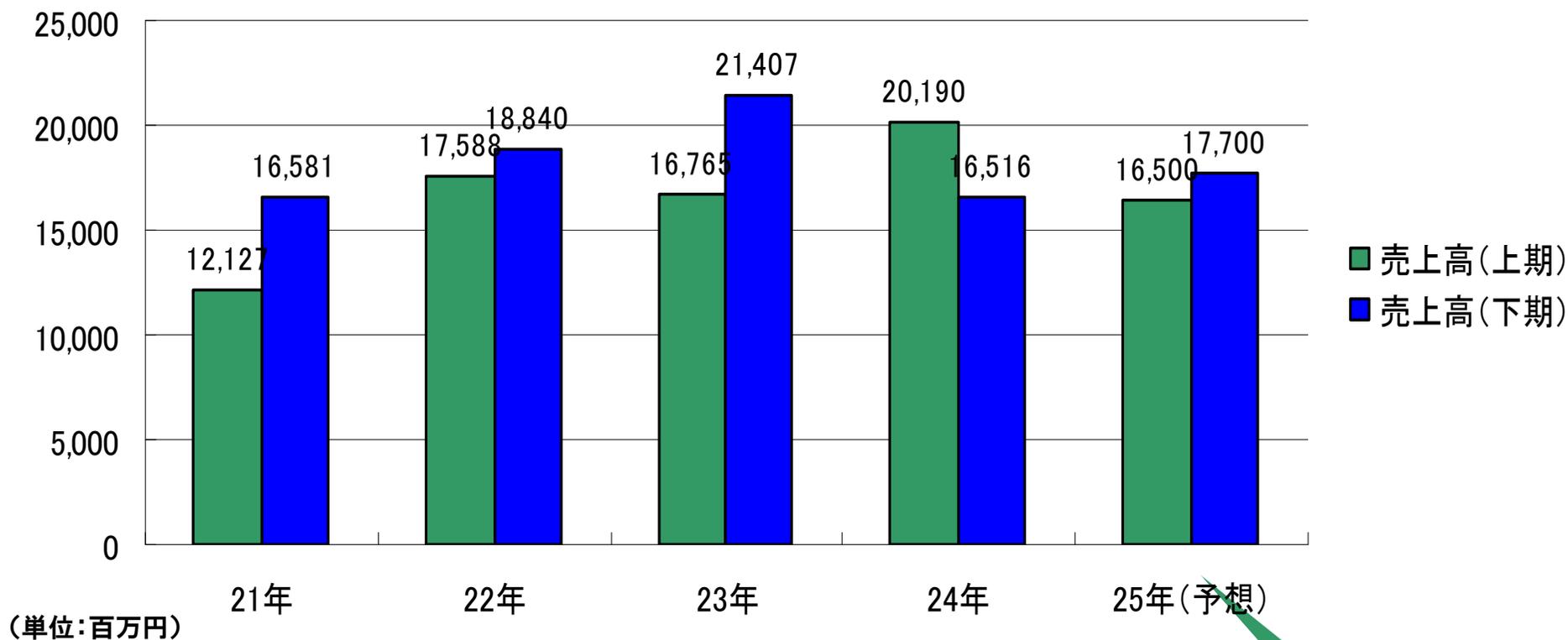
売上高: 日本からのシフトもあり上期増産となるも、下期大幅生産調整が入り減産となり、通期でも減産

セグメント利益: 生産革新活動強化による製造経費削減などで大幅黒字転換

現地通貨で見たセグメントごとの売上高動向



上期・下期別売上高動向



24年下期～25年
上期は、東日本大
震災時の半期売上
高に落ち込んだ状況
が続く見込

連結貸借対照表分析

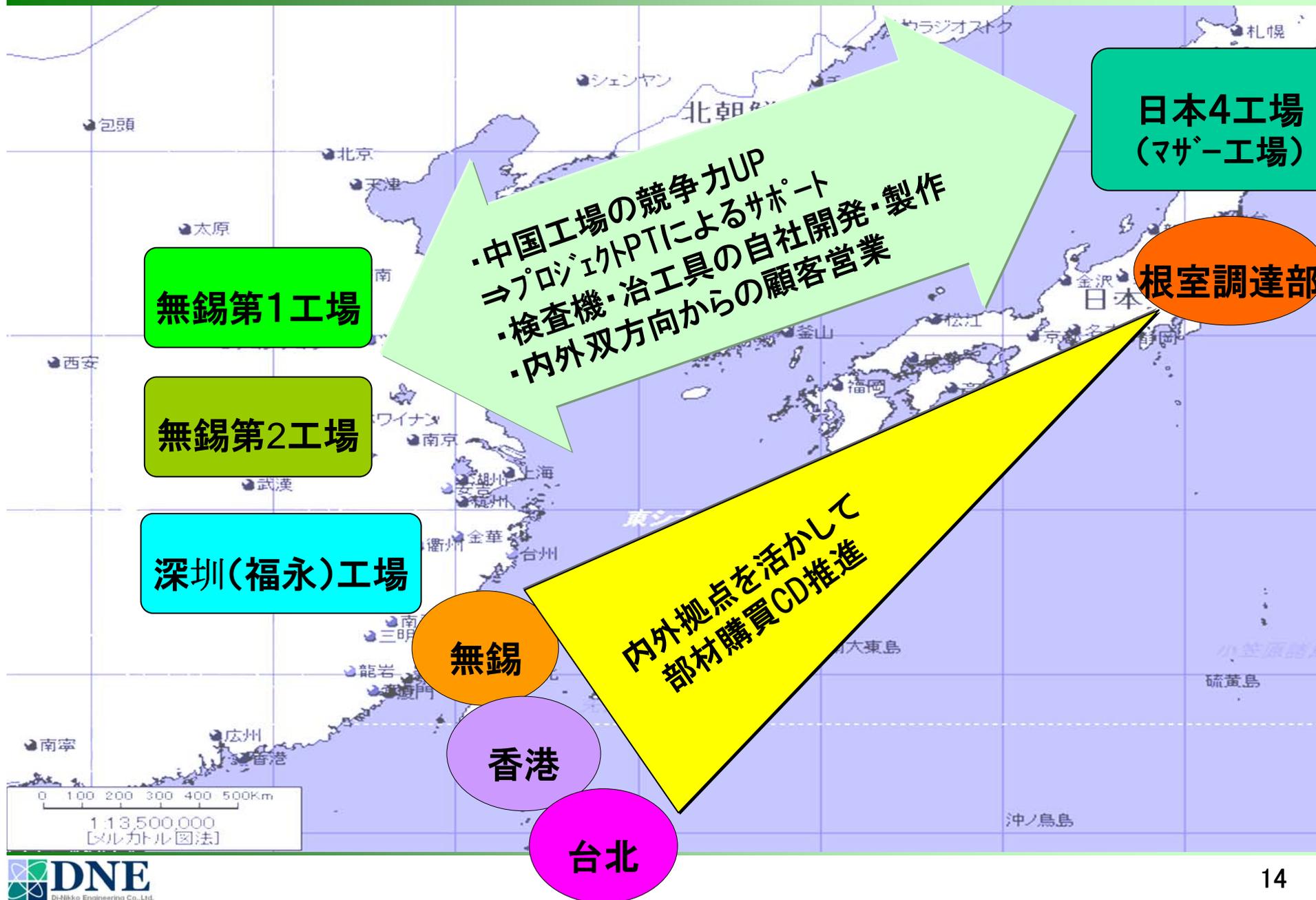
	23.12.31	24.12.31	増減	(単位:百万円)	23.12.31	24.12.31	増減
現金及び預金	1,788	3,315	1,527	支払手形及び買掛金	6,776	5,271	△ 1,505
受取手形及び 売掛金	7,541	6,507	△ 1,034	短期借入金	2,568	2,550	△ 18
商品及び製品	888	542	△ 346	1年内返済予定の 長期借入金	2,395	2,087	△ 308
原材料及び 貯蔵品	5,361	3,954	△ 1,407	1年内償還予定の社債	397	279	△ 118
流動資産合計	16,415	14,996	△ 1,419	流動負債合計	13,401	11,205	△ 2,196
<p>・24年後半の売上減少により流動資産の受取手形・売掛金と在庫(商品・製品、原材料・貯蔵品)が減少したことに伴い、流動負債の支払手形・買掛金も減少となりました。</p> <p>・現金・預金が増加、一部借入金返済を図り、総資産は圧縮となりました。</p> <p>・利益剰余金積上げと年末にかけて円安傾向から為替換算調整勘定のマイナス幅が減少、純資産が増加しました。</p>				社債	513	234	△ 279
				長期借入金	4,837	4,983	146
				負債合計	18,893	16,557	△ 2,336
				利益剰余金	1,728	2,342	614
			為替換算調整勘定	△ 624	△ 192	432	
			純資産合計	2,563	3,482	919	
資産合計	21,456	20,039	△ 1,417	負債純資産合計	21,456	20,039	△ 1,417

平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～12月31日)

	(単位:百万円)	実績	予想	前期比	
		平成24年	平成25年	金額	増減率(%)
売上高		36,706	34,200	△2,506	△6.8%
営業利益		1,158	440	△718	△62.0%
経常利益		1,070	340	△730	△68.2%
当期純利益		659	250	△409	△62.1%

顧客である完成品メーカーは円高・人手不足による生産拠点の海外シフトを加速させており、一方では国内生産拠点の集約を進めながらさらに生産効率化を追求してきていることをふまえて、この動きに同期した生産体制を再構築するために内外拠点での生産革新活動を一層推進してまいります。

平成25年期の重点施策 / 内外拠点連携の生産力・営業力・購買力UP



平成25年期の重点施策 / 今後の課題その他



ものづくりの原点回帰 &...

HOME & AWAY のもの作り発想

顧客ニーズに3S対応でQCD / E + QCD + (T) + S + (F) ((T) & (F) が中心)

- ・ 工程分析と省力化・自動化 (検査機器、洗浄機器の自社開発)
- ・ 部材管理力強化 (EMSにとっては部品配膳力=Kittingが全て)
- ・ 未然防止QA(FMEA)強化
- ・ DE / 開発設計力:デザイン力強化

...明日への挑戦...

最新医療診断用...画像処理高速回路の設計・製作



進化系 民生&産業機器中心 社会生活・インフラ系(中小ロット生産)

- ...営業拡販...
- ・カメラ用交換レンズ
- ・アミューズメント機器
- ・車載機器
- ・ATM
- ・無線通信機器
- ・生活不安解消系...防災・防犯
- ・産業機器
- ・信号機器
- ・FA制御系ユニット

匠 / キャリアパートナー作り 生産革新の深化

- ・固定費の変動費化(技能士育成)
- ・多品種・小ロット生産の効率化
- ・部材在庫最適化

オフィス・ビジネス・ユニット系 (中ロット生産)...保守系ジャンル

- ・レーザー・プリンタ
- ・スキャナ・ユニット
- ・デジタル・ネットワーク複合機
- ・大判プリンタ